

日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
XRベース協働可視化小委員会(第26期・第1回)

議事要旨

日時:令和7年3月17日(月) 13:30～15:00

場所:遠隔会議

参加者(敬称略):大倉、大林、行場、小山田、藤代、五十嵐、伊藤、植村、大西、清川、高橋、竹島、
土井、夏川、森島、森、脇田

議事次第

- 1) 小委員会委員自己紹介
- 2) 委員長・副委員長・幹事の決定(藤代委員)
- 3) 議事要旨の提出に関する委員長一任について(藤代委員)
- 4) 小委員会委員間のメールアドレス共有について
- 5) 第25期科学的知見の創出に資する可視化分科会活動のまとめ(藤代委員)
- 6) 小委員会設立骨子の説明と第26期活動に向けた議論
- 7) その他

配布資料

- 資料 26-1_00 開催通知(XR ベース協働可視化小委員会_1)
- 資料 26-1_01 第1回 XR ベース協働可視化小委員会スライド
- 資料 26-1_02 設置提案書
- 資料 26-1_03 小委員会名簿
- 資料 26-1_04 委員メールアドレス
- 資料 26-1_05 見解「科学的知見の創出に資する可視化 ―ビッグデータのビジュアル分析を基盤とする分野横断型デジタル視考―」(2023.9.26)
- 資料 26-1_06 学術の中長期研究戦略一覧(2022.12.16)
- 資料 26-1_07 No.81(グランドビジョン⑩)

討議

- 藤代委員より、資料 26-1_00、26-1_01 に基づいて本小委員会の企画提案の説明があった。
- 1) 各委員の自己紹介を実施した。
 - 2) 委員長・副委員長・幹事の決定(藤代委員)
 - 委員長:藤代委員、副委員長:竹島委員、幹事:夏川委員が承認された。
 - 3) 議事要旨の提出に関する委員長一任について(藤代委員長)
 - 藤代委員長より議事要旨の承認方法の説明がされた。議事要旨の回覧後、最終的な承認については委員長一任の旨が承認された。

4) 小委員会委員間のメールアドレス共有について(藤代委員長)

- 藤代委員長より小委員会委員間のメールアドレス共有の必要性が説明され、メールアドレスの共有が承認された。

5) 第 25 期科学的知見の創出に資する可視化分科会活動のまとめ(藤代委員長)

- 藤代委員長より、資料 26-1_01、25-1_05 に基づいて、本小委員会の第 25 期の活動報告があった。
 - 可視化の学術背景や可視化発見プロセスに深層学習レイヤを追加したデジタル視考の説明、またデジタル視考の研究例の報告、XR ベース可視化を対象とする意義の説明がなされた。

6) 小委員会設立骨子の説明と第 26 期活動に向けた議論(藤代委員長)

- 藤代委員長より、資料 26-1_01、25-1_02 に基づき設置目的と審議事項の説明、および今期の活動内容案として以下の 4 点が提示された。
 - XR ベース協働可視化研究開発事例の収集と議論
 - 学術会議可視化公開シンポジウムの開催
 - 日本発信型可視化パラダイム像の先鋭化
 - 大型予算申請(参考資料 26-1_06、25-1_07)
- 本小委員会の活動に関する議論がなされた。
 - 科学的知見をどのように測り、数値化するかということもあわせて本小委員会で検討いただきたく思う。(小山田委員)
 - XR ベース協働可視化の XR とは視覚(可視化)以外の聴覚や触覚などマルチモーダルもスコープに入れたものを想定しているのか。(行場委員)
 - 形を再現するコンピュータグラフィックスだけでなく、その他のモダリティの情報も合成し実世界に呈示する技術を研究や、多次元の情報や抽象的なデータに対する認識可能性についての検討を行いたい。(藤代委員長)
 - 可視化を題材としたマルチモーダルな研究や情報伝達の XR 研究はよくある話に聞こえるが、可視化の観点ではどのような位置づけなのか。(清川委員)
 - デジタル思考に XR を入れることでフレームワークを拡張できるかということを見定めた。また、マッピングに関する深層学習利用や XR への検討をするにあたり、VR の専門家と可視化の専門家のギャップを埋めつつ議論を行いたい。(藤代委員長)
 - この小委員会において意思の表出についてはどのように考えているか。(大倉委員)
 - 見解として取りまとめることが可能なのか模索したい。(藤代委員長)

7) その他

- 次回小委員会は本会議の内容を取りまとめたうえで、開催通知を行う。

以上